

# Data Day 2024

データとAIがもたらすビジネス変革へ

2024年3月7日

Building on belief



# 本日の登壇者

## 西 誉

日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ株式会社  
コンサルティング・サービスインテグレーション  
コンサルティング・パートナー

データ&アナリティクス チームをリードし、  
お客さまのデータ&アナリティクスの戦略、基盤構築、  
利活用に関わる課題解決のご支援を推進。



## 1. データドリブン経営を目指すために必要なビジネスアプローチの提言

- データドリブン経営のための検討項目と進め方
- 当社サービス概要

# データドリブン経営のための 検討項目と進め方

# DX推進：デジタルガバナンス・コード 2.0 (1/2)

## 「デジタルガバナンス・コード」：経営者に求められる企業価値向上に向け実践すべき事柄

### 背景

- あらゆる要素がデジタル化されていく Society5.0 に向けて、ビジネスモデルを抜本的に変革（DX1：デジタルトランスフォーメーション）し、新たな成長を実現する企業が現れてきている。
- 一方、グローバルな競争の中で、競合する新たなビジネスモデルにより既存ビジネスが破壊される事例（デジタルディスラプション）も現れてきている。

### 実践すべき事項

- 時代変化の中で、持続的な企業価値の向上を図っていくためには、企業全体の組織構造や文化の改革、中長期的な投資を行うことの観点から、経営者の関与が不可欠である。
- ① ITシステムとビジネスを一体的に捉え、新たな価値創造に向けた戦略を描いていくこと
- ② デジタルの力を、**効率化・省力化を目指したITによる既存ビジネスの改善**にとどまらず、新たな収益につながる**既存ビジネスの付加価値向上や新規デジタルビジネスの創出**に振り向けること
- ③ ビジネスの持続性確保のため、ITシステムについて技術的負債となることを防ぎ、計画的なパフォーマンス向上を図っていくこと
- ④ 必要な変革を行うため、IT部門、DX部門、事業部門、経営企画部門など組織横断的に取り組むこと

# DX推進：デジタルガバナンス・コード 2.0 (2/2)

DX  
とは

- デジタル技術やツールを導入すること自体ではなく、データやデジタル技術を使って、**顧客目線で新たな価値を創出していくこと。**
- また、そのために**ビジネスモデルや企業文化等の変革**に取り組むことが重要となる。

経営者が  
実践する  
事項

- DX推進において経営者が実践すべき内容は下記の通り。

何のために  
会社が存在するか  
理念・存在意義

(例) 製造業  
地域・顧客・  
従業員に  
貢献する・選ばれる  
会社となる

5～10年後に  
どんな会社で  
ありたいか

(例)  
**データドリブン経営  
により、多角化経営  
を実現する  
企業となる**

理想と現状の  
差分は何か  
どう解消するか

(例)  
基幹システムの  
入れ替えのために  
IT投資

顧客目線での  
価値創出のため  
データ・技術を  
どう活用するか

(例)  
サプライチェーン  
全体のデータ連携  
の起点となること  
を目指す

# データドリブン経営を実現するための目的・背景・課題

| 主要項目            | 内容  |
|-----------------|---|
| データドリブン経営の実現    | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 「データドリブン経営」とは「<b>データに基づいた意思決定を中心とした経営戦略</b>」<ul style="list-style-type: none"><li>➢ データドリブン（Data Driven）とは「データの分析結果をもとに、課題解決するための施策立案やビジネスの意思決定などを行う業務プロセス」を指します。</li><li>➢ DXとは「デジタル技術を用いることで、生活やビジネスが変容していくこと（様）」であり、データドリブン経営は、DXを実現する「手段」の一つです。</li><li>➢ 期待される効果：<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 迅速かつ精度の高い意思決定</li><li>✓ マーケティング活動の最適化と売上増加、売上拡大など</li><li>✓ 生産性向上と業務効率化</li></ul></li></ul></li></ul> |
| データドリブン経営を目指す背景 | <ul style="list-style-type: none"><li>• 「2025年の崖」による「年間12兆円の経済的損失」</li><li>• 業務の多様化と複雑化</li><li>• 市場の不確実性とビジネス環境の急速な変化</li><li>• <b>AI技術の進化や生成AIの普及</b></li></ul>   |
| 改善すべき課題（例）      | <ul style="list-style-type: none"><li>• 全社横断型のデータ活用において、各部門のデータ統合・データ分離ができない</li><li>• 部門毎にカスタマイズされたデータが溢れ、複雑化・サイロ化している</li><li>• レガシーシステムから最新のシステムに乗り換えられていない</li></ul>  |

## 企業の成長にはAI活用が必須になりつつある

### TCSの提言：AI-First Business & Architecture

※TCS AI Business Studyにおいて、参加した経営者の55%が積極的な意見

生成AI市場は  
2032年までに  
150兆円市場に拡大

出典：Bloomberg web site  
(<https://www.bloomberg.com/company/press/generative-ai-to-become-a-1-3-trillion-market-by-2032-research-finds/>) から抜粋し掲載

AIは「Job Creation  
Engine」の役割

人間の創造性・戦略的  
思考との協働が重要

出典：World Economic Forum web site  
(<https://www.weforum.org/publications/the-future-of-jobs-report-2023/>) から抜粋し掲載

情報社会  
(Society 4.0) から

AI活用による  
分析前提の未来社会  
(Society5.0)に対応

出典：Business abc web site  
(<https://www.openbusinesscouncil.org/society-5-0-the-fundamental-concept-of-a-human-centered-society>)  
内閣府ウェブサイト  
([https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/))  
から抜粋し掲載



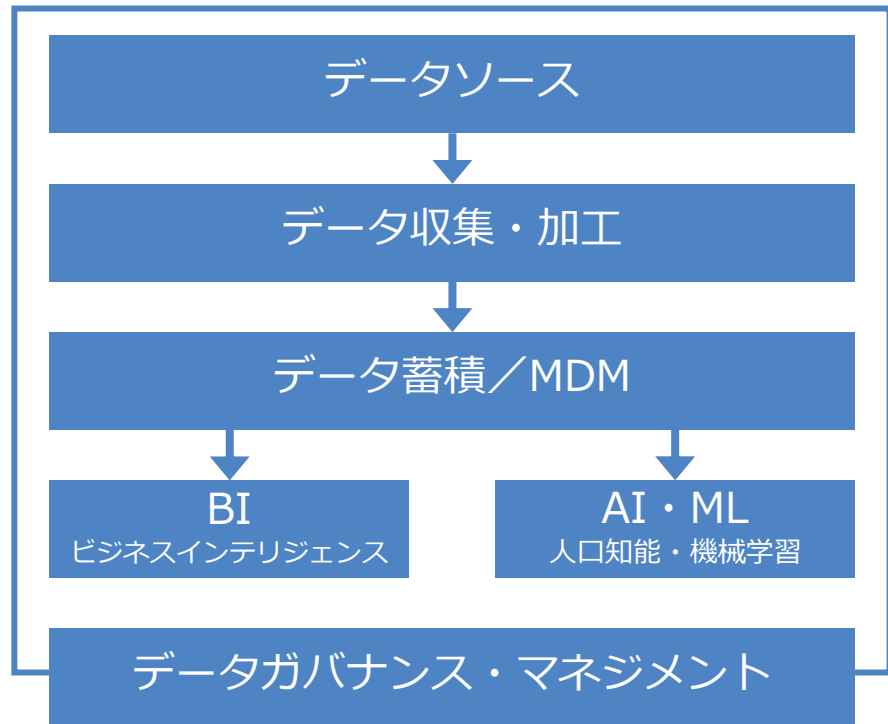
# データドリブン経営を実現するための注力領域・課題（当社想定）

| 注力領域  | 現状の課題（例）  |
|---|---|
| <p style="text-align: center;"><b>SSOT</b><br/>信頼できる唯一の<br/>情報源</p> <p>データ利活用における<br/>データ統合基盤の整備</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>• データ利活用を実現するための仕組みを構築し、運用を実施する目的達成において、課題が存在し、その課題解決が進んでいない状況。</li> <li>• 主な課題：               <ul style="list-style-type: none"> <li>□ データ利活用の目的が不明確である</li> <li>□ 組織(部門・役割)におけるデータ統合環境がサイロ化している</li> <li>□ データ統合のためのデータ収集・加工に時間を要している</li> <li>□ 統合されたデータ等のセキュリティー/ガバナンス施策が不十分である</li> </ul> </li> </ul>                           |
| <p style="text-align: center;"><b>AI-First Business</b><br/>AIありきの事業</p> <p>ビジネス・業務における<br/>データ分析・AI基盤の整備</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• データ統合を完了したが、ビジネス・業務に直結したデータ分析の仕組みを構築し、運用を実現する目的達成において、課題が存在し、その課題解決が進んでいない状況。</li> <li>• 主な課題：               <ul style="list-style-type: none"> <li>□ データ分析・AI活用するための人材が不足している</li> <li>□ 組織(部門・役割)における分析環境がサイロ化している</li> <li>□ データ分析のためのデータ準備・加工に時間を要している</li> <li>□ データ分析に利用するデータ等のセキュリティー/ガバナンス施策が不十分である</li> </ul> </li> </ul> |

# データドリブン経営を実現するためエンタープライズアーキテクチャ

■データ利活用テーマを設定し、実現するエンタープライズアーキテクチャを設計することが肝要です。

データ利活用を実現するアーキテクチャ（例）



実現アプローチ（例）

データ利活用の目的・対応の明確化  
データソースを利用して何を実現するかを定義

目的を達成するためのデータ収集・加工  
を実現する仕組み・運用を構築

データ利活用のためのデータを蓄積する  
仕組み・運用を構築

データを活用するための  
仕組み・運用を構築

データ民主化・品質・セキュリティーを  
維持するための仕組み・運用を構築

# データドリブン経営を実現するための段階的アプローチ（案）

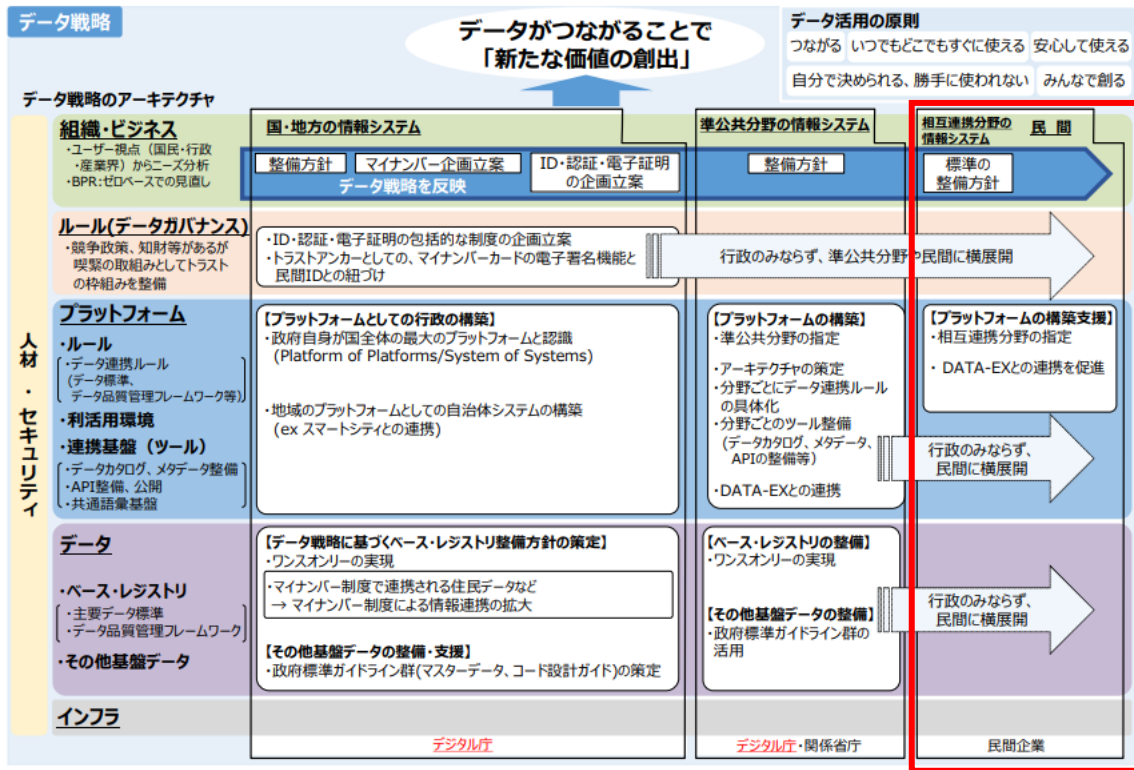
■ 企業の現状をもとに、利活用テーマを設定し、成功体験の積上げによるデータドリブン経営を目指す。

| データ利活用テーマ   | 解決すべき課題（例）   | 難易度 |
|---|--|-----|
| ■ 現行報告書等の刷新（自動化・可視化）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要なデータを収集し、マニュアルで報告書等を作成する作業を継続している。</li> <li>データ集計・データ分析に時間がかかる。</li> </ul>                        | 低   |
| ■ ビジネス部門間のデータ利活用展開（自動化・競争力の強化）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスを跨いだデータ活用の基盤が整備されていない。</li> <li>データガバナンスのルールが整備されていない。</li> </ul>                               | 中   |
| ■ グループ会社間のデータ利活用展開（自動化・競争力の強化）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業を跨いだデータ活用の基盤が整備されていない。</li> <li>データガバナンスのルールが整備されていない。</li> </ul>                                 |     |
| ■ <b>新ビジネス創出</b> に向けたデータ利活用展開<br>■ 1stPartyデータをベースに、3rdPartyデータの活用、データマーケットプレイス活用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>社内/グループ会社のデータ利用では、難しい外部データ（3rdPartyデータ）を利用する基盤が整備されていない。</li> <li>データガバナンスのルールが整備されていない。</li> </ul> | 高   |
| ■ <b>現行ビジネスにおける業務改善・効率化</b> のデータ利活用展開（生成AI活用、予測AI基盤による予測分析などの業務利用データの拡張）          | <ul style="list-style-type: none"> <li>業務データ以外のデータ収集とデータ分析（AI基盤）が整備されていない。</li> <li>データガバナンスのルールが整備されていない。</li> </ul>                      |     |

難易度を考慮したアプローチ（成功体験の蓄積）

# データドリブン経営を目指す企業を支援するTCSの役割・ミッション

## 参考) デジタル庁の役割 (データ戦略タスクフォース第4回資料を一部修正)



### ■ TCSの目指す役割・ミッション

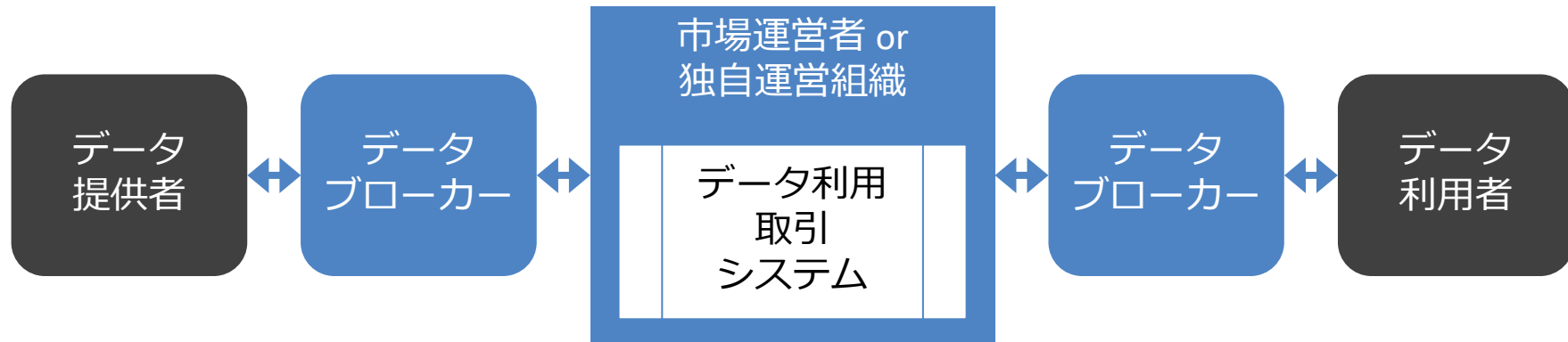
- ① グローバル企業の支援実績をベースとしたデータドリブン経営環境の整備を支援
- ② 新ビジネス創出 (データマネタイゼーション) のためのデータブローカーとしての支援 (DATA-EX利用、個別企業間の協業支援を含む)

# 対応①：データドリブン環境整備

## 将来像：データ利用権証の取引の流れ

- 企業間の新ビジネス創出のため、データ流通がより戦略的に展開・発展することが予想されます。
- 流通手段のひとつとして、データ利用権取引市場は、複数の要素から構成される社会システムが検討されています。

例) 簡易的なデータ利用取引のイメージ



- ✓ 公的データ利用権取引市場の活用 (DATA-EX等)
- ✓ より競争力を強化する場合、独自運営基盤を活用

# 対応①：データドリブン環境整備

## データ利活用・AI活用の方向性

- AIは、利用特性および得意分野により、多様な種類と用途が存在する。
- ビジネス利用・応用を想定した場合、「生成AI」「予測AI」の導入検討が肝要となる。

| 項目              | 生成AI   | 予測AI   |
|-----------------|--|--|
| 利用される<br>ケース・種類 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 収集された情報を利用し、新たな結果を生み出す機能を有する。</li> <li>■ テキスト生成は、大規模言語モデル（LLM / Large Language Model）による大量のテキストデータによりトレーニングされた自然言語処理を実施する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 収集した過去データを学習・分析し、「将来発生する事象」や「過去に発生した事象の再発可能性」を予測する。</li> <li>■ 業務属人化からAI活用による業務効率化・自動化を実現し、競争力強化を実現する。</li> </ul> |
| 具体的な成果          | <ul style="list-style-type: none"> <li>• テキスト生成（コード生成等を含む）</li> <li>• 画像・動画生成</li> <li>• 音声生成</li> <li>• マルチモーダル</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 需要予測</li> <li>• 来客予測</li> <li>• 品質予測</li> <li>• 制約予測</li> </ul>   |
| 利用環境            | <ul style="list-style-type: none"> <li>• SaaS利用</li> <li>• 自社環境構築</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• SaaS利用</li> <li>• 自社環境構築</li> </ul>   |

# 対応①：データドリブン環境整備

## データ利活用・AI活用の方向性（生成AIの利用目的検討）

■ 「生成AI」の利用目的を設定し、最適な導入計画を検討します。

| 項目        | ステージ1   | ステージ2   | ステージ3   | ステージ4   |
|-----------|---|---|---|---|
| 種類        | ■ 商用SaaS利用(公開情報利用)  | ■ 商用SaaS利用(自社ファイル連携)  | ■ 自社独自サービス開発(RAG開発)   | ■ 差別化業務向け独自LLM開発(ファインチューニング)  |
| 利用目的      | <ul style="list-style-type: none"><li>外部調査</li><li>各種生成利用</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>社内文書検索</li><li>社内業務利用</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>SaaS連携機能</li><li>特定用途利用</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>新ビジネス創出</li><li>他社差別化対応</li></ul> |
| 導入コスト     | 低   |   |   | 高   |
| 利用開始までの時間 | 小   |   |   | 大   |
| 難易度       | 低   |   |   | 高   |

# 対応①：データドリブン環境整備

## データ利活用・AI活用の方向性（予測AIの利用目的検討）

■ データ分析テーマを設定し、AI活用したデータ分析を実現するためのアプローチを検討します。

| 業界                        | 活用事例テーマ（例）              | 活用技術    |       |         |          |
|---------------------------|-------------------------|---------|-------|---------|----------|
|                           |                         | ML/機械学習 | データ分析 | Graph分析 | NLP/OCR他 |
| ※予測AIツールの提供ソリューションから抜粋し掲載 |                         |         |       |         |          |
| 流通&<br>一般消費財              | ■地理情報・空間フットプリント         |         |       | ●       |          |
|                           | ■バスケット分析                |         | ●     |         |          |
|                           | ■RFM分析と顧客生涯価値           | ●       |       |         |          |
|                           | ■レコメンデーション              | ●       |       |         |          |
| 金融&保険                     | ■保険価額付け                 | ●       |       |         |          |
|                           | ■ESG関連インタラクティブ・ドキュメント分析 |         |       |         | ●        |
|                           | ■センチメント株価アラートシステム       | ●       |       |         |          |
|                           | ■AIによって強化されたAMLと不正検知    | ●       |       | ●       |          |
| ヘルスケア&<br>製薬              | ■ドラッグリユース               |         |       | ●       |          |
|                           | ■オムニチャネルマーケティング         | ●       |       |         |          |
|                           | ■患者選択戦略                 | ●       |       |         |          |
| 製造&<br>エネルギー              | ■石油精製活動の監視              | ●       |       |         |          |
|                           | ■予知保全メンテナンス             | ●       |       |         |          |
|                           | ■異常値検知                  | ●       |       |         |          |
| 輸送&<br>ロジスティクス            | ■テリトリーバランスデザイン          | ●       |       |         |          |
| 不動産                       | ■不動産価額の予想               | ●       |       |         |          |



# 対応②：データマネタイゼーション・プランニング データ利用取引本格化に向けた検討アプローチ

| 目的   | 業務効率化・省力化   | 新ビジネス創出  | 実施項目                       | 内容  |
|------|---|--|----------------------------|---|
| 実践内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ データ統合・BIによる現状可視化</li> <li>■ 生成AI活用による業務改善・強化</li> <li>■ データ高度分析による予測・異常検知</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企業グループ内におけるデータ連携によるビジネス強化</li> <li>■ 外部取引先とのデータ連携によるエコシステム化</li> <li>■ データ利用取引市場によるデータ流通による新ビジネス展開</li> </ul> | ■ <b>ビジネス創出アイデア検討</b>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 既存ビジネスの付加価値創出のアイデア検討</li> <li>➢ 新ビジネスのアイデア検討</li> </ul>                |
|      |   |  | ■ <b>データマネタイゼーションモデル作成</b> | ➢ 目指すべきマネタイゼーションモデル案を作成   |
|      |   |  | ■ <b>実現スキーム検討</b>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ビジネススキームの整理</li> <li>➢ 実現インフラ案の整理</li> <li>➢ 実現体制・ルール整理</li> </ul>     |
|      |   |  | ■ <b>実現スキーム計画・実行</b>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 実現に向けた計画作成</li> <li>➢ 計画に基づく施策の実行</li> <li>➢ 定期的な見直し・再検討の実施</li> </ul> |

## 当社サービス概要

# データ&アナリティクス実現アプローチの全体像

▼TCSのエンゲージメントエンリポイント

## データ&アナリティクス ライフサイクル管理

ご紹介

### ①戦略検討・立案

②データインフラストラクチャー導入支援

③データ分析・AI活用支援

生成

収集

蓄積

処理

分析

解釈

対処

典型的な問題と複雑さ

CIO/CDO

データ駆動型態勢  
を実現するための  
戦略がない

DXリーダー

インフラ  
ストラクチャー  
リード

戦略はあるが、データ基盤または  
インフラやデータ管理を構築するための  
ノウハウがない

サービスリード

レポート等々の  
データ活用戦略が不明確

分析リード

最新のAI/ML技術が  
わからない

戦略

成熟度評価

アーキテクチャ  
ブループリント

実行戦略

ロードマップ策定

データインフラストラクチャー

データ統合

データストレージ

データ処理

データ利用  
マネタイゼーション

データガバナンス

DevOps

プラットフォーム  
ガバナンス

セキュリティ

分析

ビジネスインテリジェンス

データファブリック

データ探索

データ分析

AI活用

アラートと通知

視覚化

インサイト生成

レポート

対策検討項目

オフアニング

### Data Lifecycle Consulting



- 成熟度評価手法
- 価値実現・中長期計画立案フレームワーク
- アーキテクチャデザイン思考フレームワーク
- 後続提案フレームワーク

### Data Foundation/Infrastructure&Governance



- プラットフォーム技術/ツール評価手法
- Data Foundation/アーキテクチャフレームワーク(コンセプト、機能、技術)
- データ基盤/テンプレート化構築のEtoE方法論
- データガバナンス(技術/ツール評価/フレームワーク)
- PoC、Data Gov、MDM、データカタログ、データ品質アプローチ

### Data Analytics (構築、計測、拡張)



- ダッシュボードテンプレート
- アナリティクスを推進するためのフレームワーク/ガイドライン
- 分析要件テンプレートの収集
- モデル評価メトリック
- レポートテンプレート

# ①戦略検討・立案のプロジェクトアプローチ

## 事前活動

- ・貴社からの主要文書の理解/読込
- ・チームの識別とオンボーディング

## アセスメント: プラットフォームの課題評価と推奨

- ・全体計画の策定
- ・要件確認と整理
- ・対象の機能/範囲の選定

## 開発:アジャイル実装

- ・開発準備と開発開始

## プラットフォーム の理解

- ・既存プラットフォーム等と既存アプリケーション
- ・全体的なアーキテクチャ、設計、実装
- ・既存プラットフォームから派生したユースケース
- ・対象となるデータソース、インターフェイス、データ収集およびストレージ
- ・使用される既存プラットフォームの分析情報
- ・センサー、デバイス、ゲートウェイの詳細
- ・センサーからアプリケーションまでのデータフロー図

## 問題の深掘り

- ・現在の問題とその背後にある根本原因の理解
- ・貴社ロードマップと現在のアーキテクチャに基づいてギャップ分析を実施
- ・パフォーマンス/スケーラビリティに関連するすべての非機能要件を整理
- ・データオントロジー、データモデル、データ変換、センサーとエンタープライズデータの取り込み方法など要件を整理・合意
- ・ステークホルダーとのプレイバックセッション

## ソリューションの オプションと推奨事項

- ・改善策を定義し、ギャップに対処するためのTo-Beアーキテクチャの推奨
- ・As-Isアーキテクチャと機能要件との適合分析
- ・特定された問題の根本原因に対処するため解決策の提案
- ・工数、タイムライン、複雑性の観点からソリューションを比較し、今後の計画の検討サポート
- ・既存システム担当者およびステークホルダーへのソリューション & 推奨事項の説明と共有サポート

## 導入ロードマップ と提案

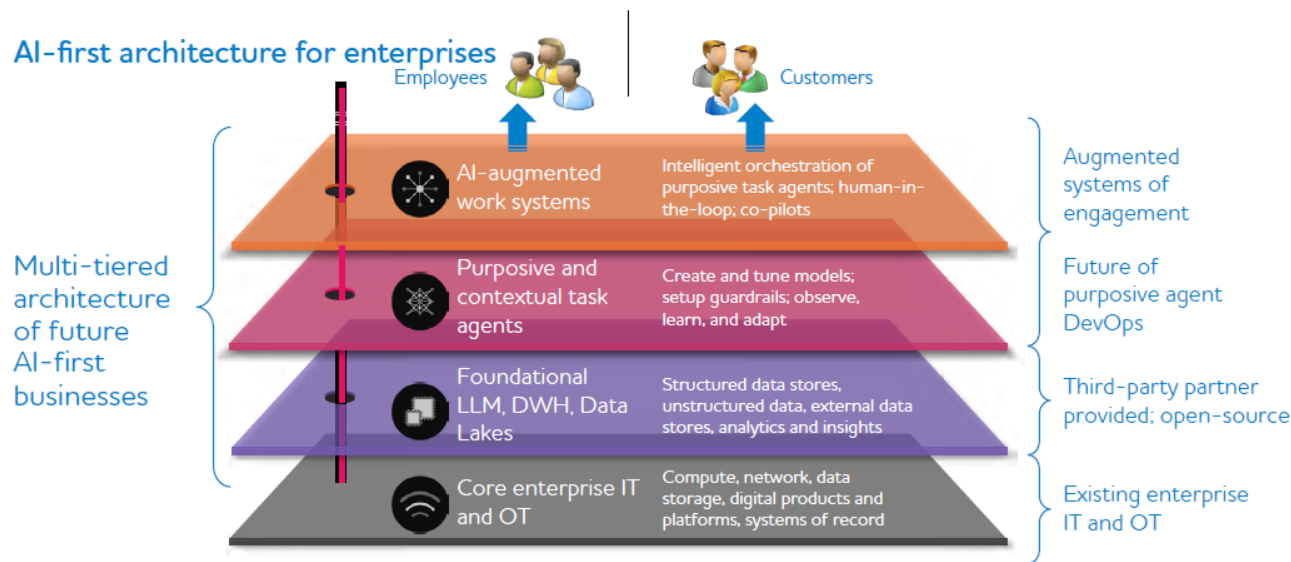
- ・合意されたソリューション & 問題解決に向けた推奨事項に沿った実装計画の提示
- ・同意ソリューション/初期バックログで特定された要件の確認と整理(大項目の分割、優先度付け)
- ・※スモールスタート・パイロット導入・PoC実施などを検討し、優先度付けによる計画策定を想定
- ・最終報告書の準備、リーダシップ向けプレゼンテーションの実施
- ・準備フェーズ以降の取り組み計画の議論
- ・取り組み計画に沿った見積もり、または提案書の提出

# ①戦略検討・立案のフレームワーク

## グローバルの実績・知見

- グローバルの知見・実績をもとに、顧客課題を解決する効果的なサービスを提供します。

例) TCS が推奨するAI-First Business Architecture (当社公開サイトからの抜粋)



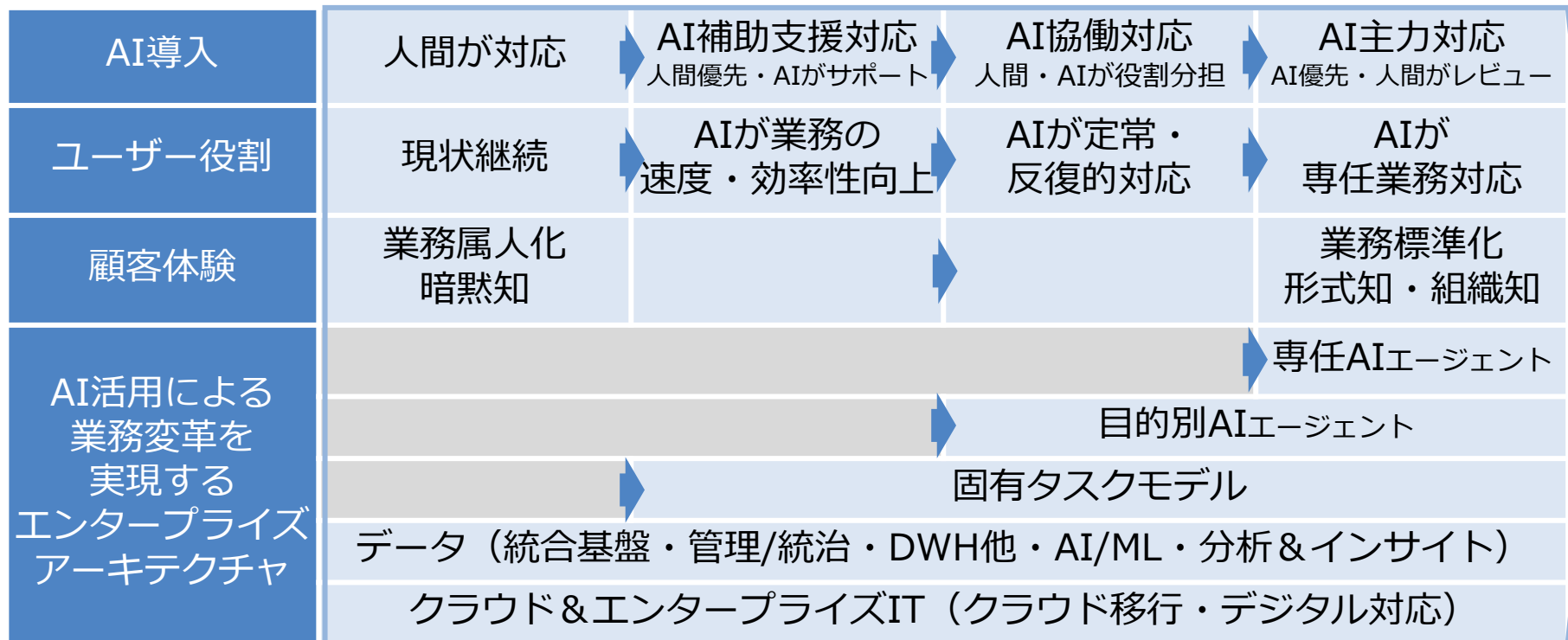
### ■ 実編すべき基礎・基盤 (AI活用の重要要素)

1. 業界ファースト：サービスを受ける業界のバリューチェーンに合わせて調整を実施する。
2. クラウドファースト：クラウド活用の効果を最大限に活用する。
3. エコシステムの有効化：パートナーと協力して、ソリューションを作成する。
4. 企業内業務に対応：企業業務の固有の暗黙知を形式知・組織知に変換する。

# ①戦略検討・立案のフレームワーク

## AI活用のロードマップ

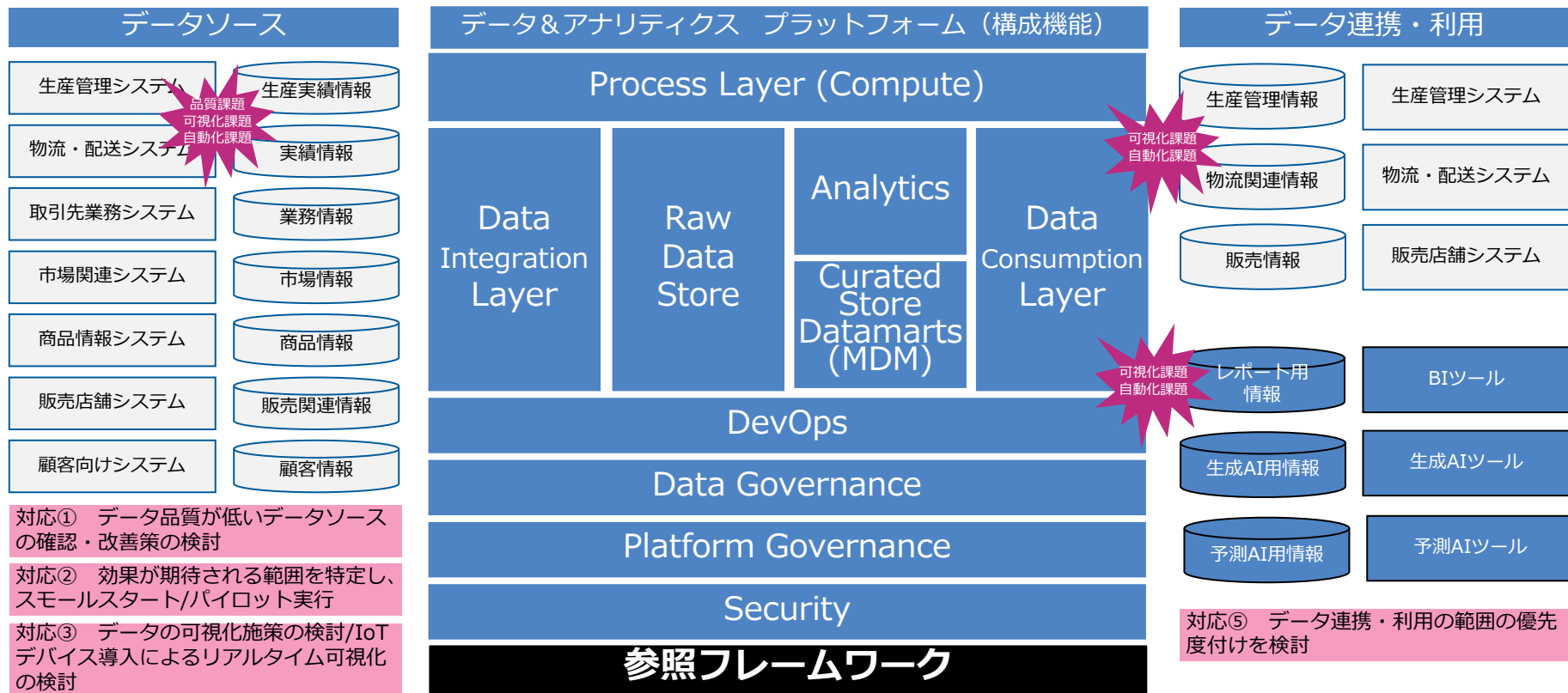
### ■ 企業のAI活用のロードマップ（例）



出典：TCS strategy to execution: AI guiding principles TCS AI for Business principles brochures  
at <https://www.tcs.com/who-we-are/worldwide/europe/davos/ai-guiding-principles-ceos> を加工して作成

# ①戦略検討・立案のフレームワーク

## (参考) データ統合・分析プラットフォーム例



対応① データ品質が低いデータソースの確認・改善策の検討

対応② 効果が期待される範囲を特定し、スモールスタート/パイロット実行

対応③ データの可視化施策の検討/IoTデバイス導入によるリアルタイム可視化の検討

対応⑤ データ連携・利用の範囲の優先度付けを検討

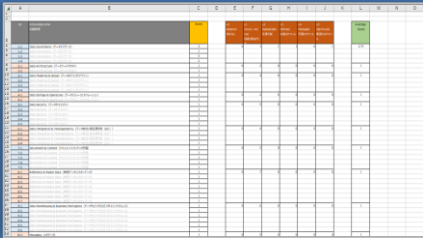
# ①戦略検討・立案のフレームワーク (成果物例)

## 成熟度評価

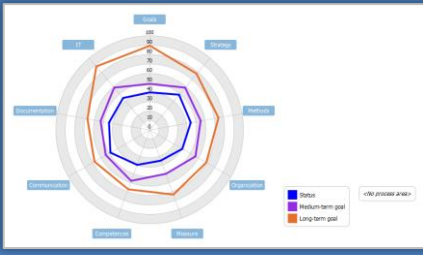
Maturity Assessment Framework



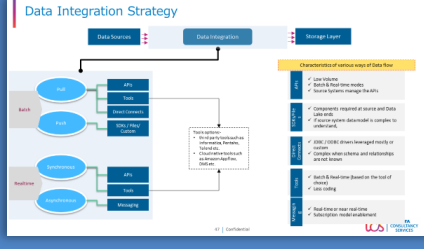
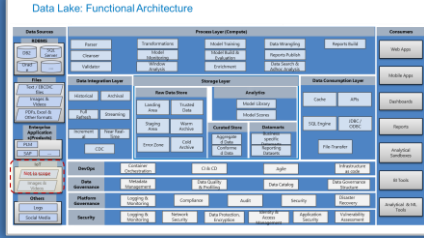
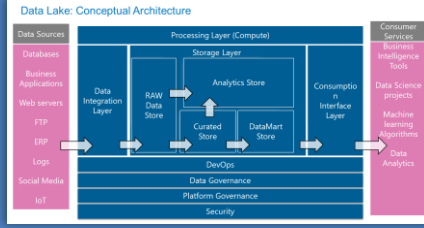
Maturity Assessment Framework



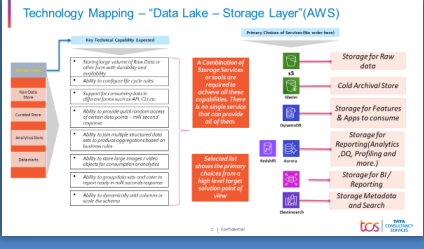
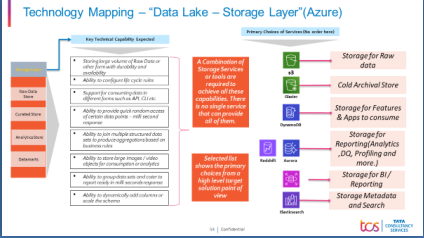
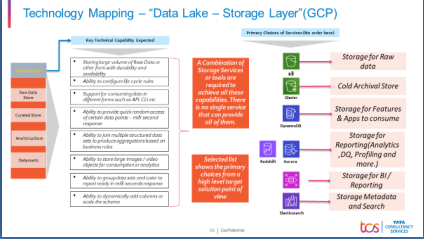
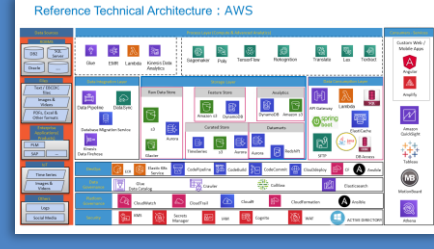
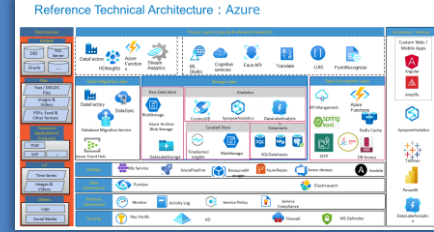
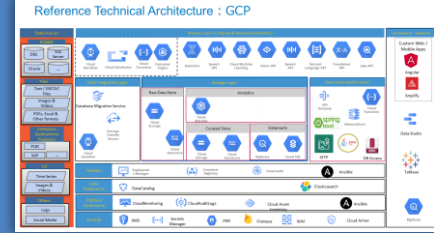
Maturity Assessment Framework



## アーキテクチャ



## サービスマッピング

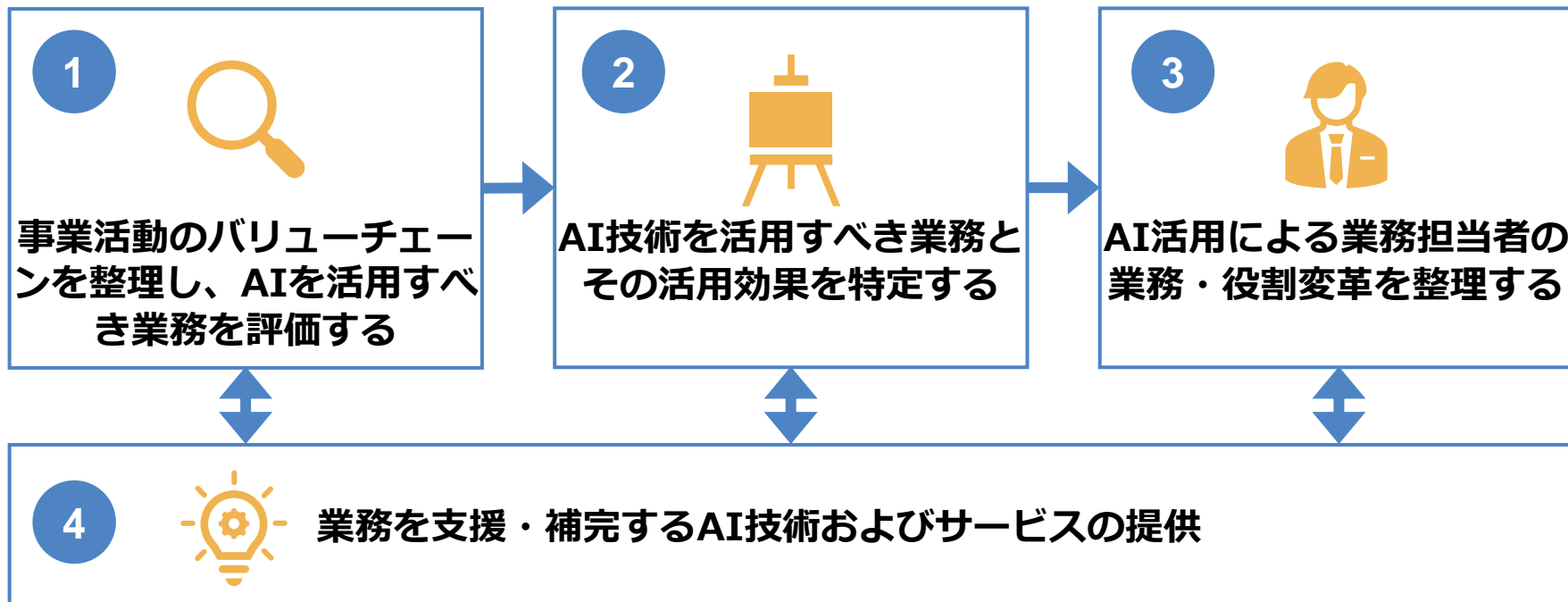




# ①戦略検討・立案のフレームワーク

## AI-First Business Assessment : AIを活用する業務を特定するアプローチ

- 企業の事業活動のバリューチェーン（価値連鎖構成図）を整理し、その構成要素（主活動、支援活動）におけるAI活用業務（AIホットスポット）を評価し特定する。



# ①戦略検討・立案のフレームワーク

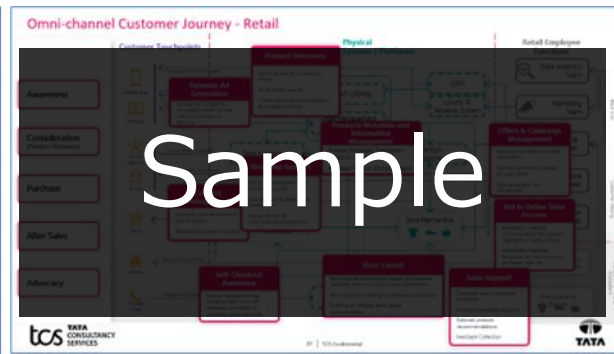
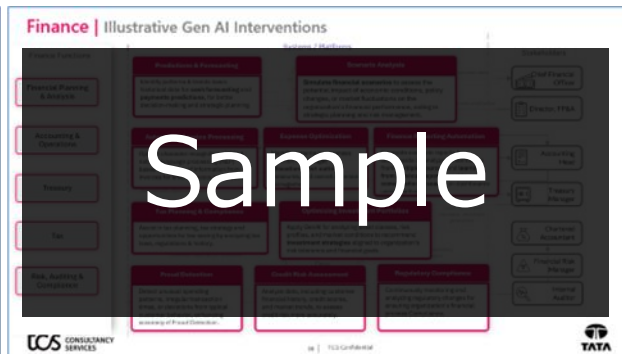
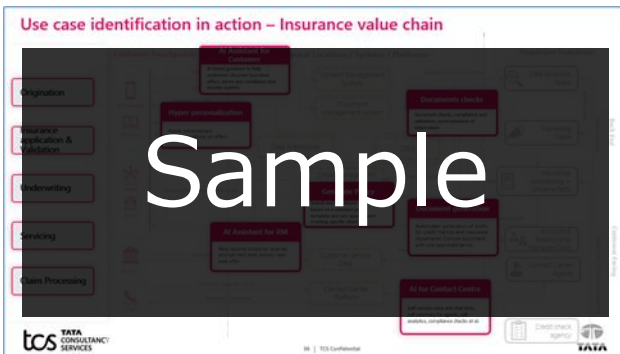
## AI-First Business Assessment : 成果物イメージ

- AI-First Business Assessmentを実施したユースケースとして、保険関連・金融関連・小売関連の成果物イメージを提示します。
- 各業界・業種の企業の事業活動のバリューチェーン（価値連鎖構成図）の構成要素（主活動、支援活動）を評価した結果から、AI活用業務（AIホットスポット）をマッピングした結果となります。
- 今後の技術発展（マルチモーダルAI活用、他）を意識した中長期計画を検討します。

### 保険関連

### 金融関連

### 小売関連（オムニチャネル）



# ①戦略検討・立案のフレームワーク

お客さまの課題解決のため、当社の考えるベストプラクティスを提供

お客さま

グローバルの実績・知見を  
提供

グローバルリソース  
日本企業専用デリバリー  
センター



お客さま課題の解決  
を支援

最適なリソース&  
ソリューションを  
組み合わせたサービス提供

最適なパートナーと連携したソリューション提供

Snowflake / Microsoft / Dataiku  
AWS / Azure / GCP etc.

# ①戦略検討・立案のフレームワーク

## データドリブン企業を目指すの企業の課題（例）

■データドリブン企業は、さまざまな課題を検討・解決する必要があります。

| 課題                   | 内容  |
|----------------------|---|
| データ・分析戦略の立案          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル企業で、事業戦略と整合性を持つデータ連携およびデータ利活用を実現するための戦略・中長期計画を確立することが必要です。</li> <li>■ 最新の技術動向などを考慮したAI活用を含めて、業務効率化または新ビジネス創出の施策が必要です。</li> </ul>            |
| データ統合と分散             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル企業は、異なる地域や部門からデータを統合し、一元化する必要があります。</li> <li>■ 異なるシステムやデータソースからのデータの収集と統合が複雑で、効率的なデータ活用に課題をもたらします。</li> </ul>                               |
| インフラストラクチャーの管理       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル企業は、複数の地域でデータセンターやクラウドインフラストラクチャーを運用する必要があり、これを適切に管理することが課題です。</li> <li>■ インフラストラクチャーの一元管理とセキュリティ確保が必要です。</li> </ul>                        |
| データの品質と一貫性           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル規模でデータを収集すると、異なる地域や部門からのデータの品質と一貫性に関する課題が生じます。</li> <li>■ データ品質の保証と一貫性の確保が難しい場合、信頼性のある分析と意思決定が困難になります。</li> </ul>                           |
| データプライバシーと法的規制       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 異なる国や地域におけるデータプライバシーと法的規制の多様性が、データの収集、保存、処理、共有に関する課題とリスクを引き起こします。</li> <li>■ GDPR(一般データ保護規則)や CCPA(カリフォルニア消費者プライバシー法)などの法規制への適合が必要です。</li> </ul> |
| データセキュリティとサイバーセキュリティ | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル企業はサイバーセキュリティの脅威に晒され、データ漏洩やサイバー攻撃に対処する必要があります。</li> <li>■ データのセキュリティ対策が重要です。</li> </ul>   |
| カルチャル・多文化的な違い        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル企業は、異なる文化や言語でビジネスを展開しており、データ利活用の文化やプロセスを統一することが難しい場合があります。</li> <li>■ 異なる地域でのデータ利活用へのアプローチの違いも課題です。</li> </ul>                              |
| データ活用の文化とリーダーシップ     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ データ活用文化を組織内に浸透させることや、データドリブンなリーダーシップの確立が課題となります。</li> </ul>  |
| データエンジニアリングとスキル不足    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ データエンジニアリングやデータサイエンスの専門家の不足が、グローバル企業にとって課題となります。</li> <li>■ 適切なスキルセットを持つ従業員の確保と育成が必要です。</li> </ul>   |

Thank you

本資料に記載されている会社名、ロゴ、製品名およびサービス名などは、日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社および各社の商標または登録商標です。本資料掲載内容の無断複写・転載は、媒体問わず禁じられています。掲載されている情報は本資料作成時の情報です。